

病
院
年
報

第五十九号（二〇三年）

川
崎
市
立
川
崎
病
院



病院年報

第 59 号

令和 5 年度版

川崎市立川崎病院

目次

川崎市立川崎病院基本理念	1	皮膚科	50
病院長あいさつ	2	泌尿器科	50
位置及び案内	3	産科・婦人科	51
I 概要			
1 病院概要	6	眼科	51
2 施設基準一覧	7	耳鼻咽喉科	52
3 沿革	12	歯科口腔外科	53
4 機構	20	放射線診断科・放射線治療科	54
5 人事の変遷	21	麻酔科及びMEセンター	64
6 診療科名簿	25	病理診断科	67
7 病院案内図	31	救命救急センター	68
8 定例院内会議	33	ロボット手術センター	69
		病態栄養治療部	70
		健康診査室	70
II 診療科概要			
1 内科	38	III 部門概要	
2 小児科	42	1 看護部	72
3 新生児内科	42	2 医療安全管理室	76
4 精神科	43	3 感染対策室	78
5 外科	44	4 臨床研究支援室	81
6 乳腺外科	44	5 薬剤部	82
7 血管外科	45	6 検査科	90
8 内視鏡センター	45	7 食養科	98
9 呼吸器外科	46	8 患者総合サポートセンター	101
10 心臓血管外科	46	9 認知症疾患医療センター	110
11 脳神経外科	46	10 医療情報システム管理室	111
12 整形外科	47		
13 リハビリテーション科	49		
14 形成外科	50		

IV チーム医療概要

- 1 緩和ケアチーム …… 114
- 2 褥瘡対策チーム …… 115
- 3 認知症ケアチーム …… 117
- 4 栄養サポートチーム/摂食嚥下支援チーム… 119
- 5 排尿ケアチーム …… 120

V 事務部門概要

- 1 医事課 …… 122
- 2 診療統計 …… 123
- 3 手術統計 …… 130
- 4 分娩統計 …… 142
- 5 クリニカルパス使用件数 … 143
- 6 外来治療センター利用状況 … 143
- 7 主要医療機器・備品 …… 144
- 8 主な委託業務 …… 163
- 9 図書室 …… 164

VI 経理概要

- 1 年度別経営収支状況 …… 168
- 2 収入・支出状況 …… 169
- 3 年度別一般会計繰入金及び出資金 … 171
- 4 比較貸借対照表 …… 171
- 5 主な経営分析 …… 173

VII 研究・研修及び実習・講師派遣

- 1 診療関係研究 …… 176
- 2 研究交流会 …… 178
- 3 看護研究発表会 …… 181
- 4 研 修 …… 184
- 5 各科別実習状況報告 …… 186
- 6 講師派遣 …… 188

VIII 臨床研修概要

- 1 経 緯 …… 190
- 2 初期臨床研修医プログラム …… 195

IX 業績目録

- 科別業績統計 …… 202
- 1 当院における学位取得者 …… 204
- 2 賞 …… 204
- 3 研究助成及び共同研究 …… 204
- 4 書 籍 …… 204
- 5 書籍の章 …… 204
- 6 論 文 …… 205
- 7 学会・研究会 …… 210
- 8 講演会等 …… 218
- 9 市民対象イベント(当院開催)・224

川崎市立川崎病院基本理念

私たちは、地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し、「病気」でなく「病人」を診る心を大切に、安全安心で質の高い医療を、患者の皆さまとともに考え、実践し、健康と福祉の向上を通じて地域社会の発展に貢献することを目指します。

病院運営方針

基本理念を踏まえ、自治体病院の使命と役割を果たし、市民に信頼される安全安心で質の高い医療を継続的かつ効率的に提供していくために、次の方針を定めます。

- 1 患者さんの声を尊重し、高い倫理観をもって医療にあたります。
- 2 地域の基幹病院として、地域の医療ニーズに迅速かつ柔軟に対応できる、良質な急性期医療および専門性の高い医療を提供します。
- 3 救急医療、がん診療、周産期医療、災害時医療の充実を図ります。
- 4 地域の医療機関との連携を大切にします。
- 5 教育、研修を推進し、職員の知識、技術の向上と人材育成に努めます。
- 6 安全管理の向上に努めます。
- 7 健全な経営基盤の確立に努めます。
- 8 職員の経営意識の高揚を図るとともに、働きがいのある職場づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は、患者さんの医療にかかわる、次の権利を尊重します。

- 1 生命の尊厳と、人格を尊重した医療を受ける権利があります。
- 2 安全安心で質の高い医療を平等に受ける権利があります。
- 3 ご自身の病気や治療について知る権利を持ち、わかりやすく説明を受け、希望や意見を述べる権利があります。なお、病名や予後について知りたくない場合は、そのお気持ちを尊重します。
- 4 ご自身が受ける医療を自らの意思で選択あるいは拒否する権利があります。
- 5 ご希望により、診療のいかなる段階においても、他の医師および他の医療機関の医師の意見（セカンド・オピニオン）を求める権利があります。
- 6 診療上の個人情報 は 厳重に保護され、その秘密は守られます。

病院長のあいさつ

川崎市立川崎病院
第 18 代 病院長
野崎 博之



令和 6 年 7 月 1 日に川崎市は市制 100 周年を迎えました。また令和 6 年 7 月 3 日には、一万円、五千円、千円の 3 券種が改刷されました。時代の転換点を思わせるできごとが続きました。

一方、令和 5 年 5 月 8 日新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置づけが「2 類相当」から「5 類」へ移行し、コロナ禍が収束したように社会では思われがちです。しかし、厚労省が発表した本感染症による死亡者数は、5 月から 11 月の半年余りで 1 万 6043 人とまだまだ医療への影響は大きく、医療の現場では引き続き本感染症への対応にあたらざるを得ない 1 年となりました。

川崎市では、外国人市民の市政参加を推進し、相互に理解しあい、共に生きる地域社会の形成を目指しており、当院でも増え続ける地域の外国人に対応すべく体制を整備してまいりました。令和 6 年 2 月には、外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMP）の審査を受けることとなり、無事認証されました。

津田梅子は「何かを始めることはやさしいが、それを継続することは難しい、成功させることはなお難しい」と述べております。また渋沢栄一も「すべて世の中の事は、もうこれで満足だという時は、すなわち衰える時である」と述べています。今後も引き続き質の高い医療を提供することを目指していきたいと思っております。

アメリカ合衆国の実業家のウォーレン・バフェット（Warren Edward Buffett）氏は「我々が歴史から学ぶべきなのは、人々が歴史から学ばないという事実だ。」と述べて、過去から学ぶことの重要性を指摘しております。昨年の方針の「あいさつ」でも記載したとおり第二次世界大戦中、英国首相に就任したウィンストン・チャーチル（Winston Churchill）は「過去を広く深く見渡すことができれば、未来も広く深く見渡すことができるであろう」と述べております。過去の事実を掘り起こし、過去を読み取り、歴史を学ぶことによって、今後の社会を生き抜く「智慧」を見つけることが重要です。そのために真実がゆがまないように、本年報ではできる限り事実を幅広く記載し、後日の評価のための資料としての意味のあるものにしたいと考えております。

北里柴三郎は「人に熱と誠があれば何事も達成する。世の中は決して行き詰まらぬ。もし行き詰まったとしたら、それは人に熱意と誠意がないからだ」と訴えております。この年報は、職員一人一人が熱意をもって頑張った 1 年の集大成です。過去の歴史に学び、更に質の高い医療の提供を目指すとともに、より地域に密着した病院運営に努めたいものです。引き続き、川崎病院へのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

位置及び案内

川崎市は、多摩丘陵の南端多摩川の河口に開けた平坦部にあります。東京と横浜の間に接している細長い形の都市で、東京駅へ18分、横浜駅へ9分の距離にあります。

川崎市は、令和5年4月現在で人口が154万人を超え、全国的に人口減少が続く中、特に若い世代に選ばれる都市として、「成長」と「成熟」の調和による持続可能な「最幸のまち」を目指して更なる発展を続けております。

川崎市立川崎病院は、市の基幹病院として、高度・特殊・急性期医療、救急医療を中心に、小児から成人・高齢者・妊産婦等の医療を提供するとともに、精神科救急医療の基幹病院としての機能も担っています。また、市内唯一の感染症病床における二類感染症患者の受入や、災害拠点病院、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院としての役割を担うほか、臨床研修指定病院として医師の育成を行うなど、地域医療水準の向上に寄与しています。



【交通機関】

JR川崎駅東口下車

バス

直通ワンコインバス（市バス・臨港バス）

⑬番のりば 川崎病院行き

市バス

⑥番のりば 小田栄循環

⑪番のりば 市営埠頭行き

⑮番のりば 扇町行き

⑭番のりば 水江町行き

⑯番のりば 浮島バスターミナル行き

カルッツかわさき
・富士見公園前
下車
(徒歩5分)

臨港バス

①番のりば 水江町・日立造船行き

②番のりば 塩浜営業所行き

⑤番のりば 鋼管循環

⑦番のりば 大師行き

⑧番のりば 三井埠頭行き

さつき橋
下車
(徒歩3分)





川崎市立川崎病院全景

I 概 要

1 病院概要

(令和6年3月31日 現在)

開設年月日	昭和2年4月30日		
病院長名	野崎 博之		
所在地	神奈川県川崎市川崎区新川通12-1		
電話番号・FAX番号	TEL 044-233-5521 FAX 044-245-9600		
診療科 (43科)	内科	呼吸器内科	循環器内科
	消化器内科	血液内科	腫瘍内科
	糖尿病内科	内分泌内科	腎臓内科
	脳神経内科	感染症内科	新生児内科
	ペインクリニック内科	肝臓内科	緩和ケア内科
	外科	呼吸器外科	心臓血管外科
	消化器外科	乳腺外科	小児外科
	整形外科	脳神経外科	形成外科
	血管外科	精神科	アレルギー科
	リウマチ科	小児科	皮膚科
	泌尿器科	産科	婦人科
	眼科	耳鼻咽喉科	リハビリテーション科
	放射線診断科	放射線治療科	病理診断科
	救急科	麻酔科	歯科
	歯科口腔外科		
病床数	一般 663床		
	精神 38床		
	感染 12床		
面積	敷地面積 19,813.32m ²		
	建物面積 6,325.94m ²		
	延床面積 49,890.18m ²		
医療機関コード番号	内科 5000054	歯科 5060058	
病院指定等	地域医療支援病院		
	地域がん診療連携拠点病院		
	神奈川県難病医療支援病院		
	災害拠点病院		
	三次救急医療機関		
	神奈川DMAT指定病院		
	第二種感染症指定医療機関		
	エイズ治療拠点病院		
	地域周産期母子医療センター		
	川崎市応急入院指定病院		
認知症疾患医療センター			
主な医療設備	PET-CT		
	リニアック		
	SPECT		
	CT		
	MRI		
	X線テレビ装置		
	血管造影撮影装置		
	マンモグラフィー		
手術支援ロボット			

2 施設基準一覧
施設基準一覧（基本）

（令和6年3月31日 現在）

届出項目	受理番号	認定日
1 地域歯科診療支援病院歯科初診料	(病初診) 第50号	平成30年10月 1日
2 歯科外来診療環境体制加算 2	(外来環 2) 第314号	平成30年 6月 1日
3 歯科診療特別対応連携加算	(歯特連) 第28号	平成22年 4月 1日
4 一般病棟入院基本料(急性期一般 1)	(一般入院) 第1478号	令和 3年 3月 1日
5 精神病棟入院基本料(10対1)	(精神入院) 第2170号	平成26年 1月 1日
6 急性期充実体制加算	(急充実) 第12号	令和 4年 4月 1日
7 救急医療管理加算	(救急医療) 第135号	令和 2年 4月 1日
8 超急性期脳卒中加算	(超急性期) 第31号	平成20年 4月 1日
9 診療録管理体制加算	(診療録 2) 第87号	平成16年 4月 1日
10 医師事務作業補助体制加算1(25対1)	(事補 1) 第109号	令和 3年 7月 1日
11 急性期看護補助体制加算 25:1(看護補助5割以上) 夜間100対1急性期看護補助体制加算 夜間看護体制加算 看護補助体制充実加算	(急性看護) 第75号	令和 4年 6月 1日
12 看護職員夜間配置加算1(12対1)	(看夜配) 第81号	平成29年 4月 1日
13 療養環境加算	(療) 第32号	平成30年 8月 1日
14 重症者等療養環境特別加算	(重) 第119号	平成27年 3月 1日
15 無菌治療室管理加算	(無菌 1) 第28号	令和 3年 4月 1日
16 緩和ケア診療加算	(緩和) 第59号	令和 3年 1月 1日
17 精神科応急入院施設管理加算	(精応) 第14号	令和 4年 5月 1日
18 精神病棟入院時医学管理加算	(精入学) 第4号	平成13年 8月 1日
19 精神科身体合併症管理加算	(精合併加算) 第60号	平成26年 6月 1日
20 摂食障害入院医療管理加算		令和 4年 4月 1日
21 栄養サポートチーム加算	(栄養チ) 第31号	平成23年 3月 1日
22 医療安全対策加算	(医療安全 1) 第43号	平成30年12月 1日
23 感染対策向上加算 1 指導強化加算	(感染対策 1) 第67号	令和 4年 4月 1日
24 患者サポート体制充実加算	(患サポ) 第28号	平成24年 4月 1日
25 褥瘡ハイリスク患者ケア加算	(褥瘡ケア) 第73号	令和 2年 4月 1日
26 ハイリスク妊娠管理加算	(ハイ妊娠) 第53号	平成21年 4月 1日
27 ハイリスク分娩管理加算	(ハイ分娩) 第31号	平成21年 4月 1日
28 精神科救急搬送患者地域連携受入加算	(精救急受入) 第6号	平成24年 4月 1日
29 呼吸ケアチーム加算	(呼吸チ) 第37号	平成30年 6月 1日
30 後発医薬品使用体制加算	(後発使 1) 第114号	平成30年 9月 1日
31 データ提出加算	(データ提) 第17号	平成24年10月 1日
32 入退院支援加算	(入退支) 第76号	令和 2年 4月 1日
33 認知症ケア加算	(認知) 第181号	平成30年 9月 1日
34 せん妄ハイリスク患者ケア加算	(せん妄ケア) 第2号	令和 2年 4月 1日
35 精神疾患診療体制加算	(精疾診) 第43号	令和元年10月 1日
36 排尿自立支援加算	(排自支) 第25号	令和 2年 7月 1日
37 地域医療体制確保加算	(地医確保) 第1号	令和 2年 4月 1日
38 地域歯科診療支援病院入院加算	(地歯入院) 第3号	平成20年 4月 1日
39 救命救急入院料 1 救急体制充実加算 1 早期離床・リハビリテーション加算	(救 1) 第9号	令和 4年10月 1日
40 特定集中治療室管理料 3 早期離床・リハビリテーション加算	(集 3) 第30号	平成30年10月 1日
41 新生児特定集中治療室管理料 2	(新 2) 第26号	令和 4年 4月 1日
42 新生児治療回復室入院医療管理料	(新回復) 第11号	平成26年 3月 1日
43 小児入院医療管理料 2 養育支援体制加算 時間外受入体制強化加算	(小入 2) 第13号	平成26年 3月 1日

施設基準一覧(特掲)

(令和6年3月31日 現在)

	届出項目	受理番号	認定日
1	ウイルス疾患指導料	(ウ指) 第13号	令和 2年10月 1日
2	糖尿病合併症管理料	(糖管) 第51号	平成20年 4月 1日
3	がん性疼痛緩和指導管理料	(がん疼) 第42号	平成22年 4月 1日
4	がん患者指導管理料(イ)	(がん指イ) 第112号	令和元年12月 1日
5	がん患者指導管理料(ロ)	(がん指ロ) 第93号	令和元年12月 1日
6	がん患者指導管理料(ニ)	(がん指ニ) 第35号	令和 2年 7月 1日
7	糖尿病透析予防指導管理料	(糖防管) 第17号	平成24年 4月 1日
8	小児運動器疾患指導管理料	(小運指管) 第40号	令和 2年 4月 1日
9	乳腺炎重症化予防ケア・指導料	(乳腺ケア) 第34号	平成30年 4月 1日
10	婦人科特定疾患治療管理料	(婦特管) 第205号	令和 2年10月 1日
11	二次性骨折予防継続管理料 1	(二骨管1) 第59号	令和 4年 4月 1日
12	二次性骨折予防継続管理料 3	(二骨継3) 第105号	令和 4年 4月 1日
13	下肢創傷処置管理料	(下創管) 第44号	令和 4年 9月 1日
14	地域連携小児夜間・休日診療料 2	(小夜2) 第10号	平成25年 3月 1日
15	院内トリアージ実施料	(トリ) 第6号	平成24年 4月 1日
16	外来放射線照射診療料	(放射診) 第35号	平成28年 5月 1日
17	外来腫瘍化学療法診療料 1	(外化診1) 第76号	令和 4年 4月 1日
18	相談支援加算(療養・就労両立支援指導料)	(両立支援) 第34号	令和 5年 7月 1日
19	開放型病院共同指導料	(開) 第58号	平成28年 4月 1日
20	がん治療連携計画策定料	(がん計) 第26号	平成30年 2月 1日
21	排尿自立指導料	(外排自) 第25号	令和 2年 7月 1日
22	ハイリスク妊産婦連携指導料 1	(ハイ妊連1) 第29号	平成30年10月 1日
23	ハイリスク妊産婦連携指導料 2	(ハイ妊連2) 第22号	平成30年10月 1日
24	肝炎インターフェロン治療計画料	(肝炎) 第126号	平成27年 3月 1日
25	薬剤管理指導料	(薬) 第244号	平成22年 4月 1日
26	医療機器安全管理料 1	(機安1) 第91号	平成20年 4月 1日
27	精神科退院時共同指導料 1・2	(精退共) 第28号	令和 2年 7月 1日
28	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	(在電場) 第2号	平成30年 4月 1日
29	持続血糖測定器加算	(持血測1) 第38号	平成28年12月 1日
30	遺伝学的検査	(遺伝検) 第50号	令和 5年 1月 1日
31	骨髄微小残存病変測定	(骨残測) 第17号	令和 3年 2月 1日
32	B R C A 1 / 2 遺伝子検査	(B R C A) 第47号	令和 2年 7月 1日
33	H P V 核酸検出及びH P V 核酸検出 (簡易ジェノタイプ判定)	(H P V) 第107号	平成26年 4月 1日
34	検体検査管理加算 (I)	(検I) 第195号	平成20年 7月 1日
35	検体検査管理加算 (II)	(検II) 第112号	平成23年 2月 1日
36	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	(歩行) 第101号	平成31年 2月 1日
37	長期継続頭蓋内脳波検査	(長) 第21号	平成27年 3月 1日
38	脳波検査判断料 1	(脳判) 第15号	令和元年10月 1日
39	神経学的検査	(神経) 第82号	平成20年 4月 1日
40	ロービジョン検査判断料	(ロー検) 第52号	平成30年 9月 1日
41	小児食物アレルギー負荷検査	(小検) 第124号	平成31年 4月 1日
42	画像診断管理加算 1	(画1) 第8号	平成14年 4月 1日
43	ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コン ピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁 気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用 ポジトロン断層撮影	(ポ断コ複) 第37号	平成30年 4月 1日
44	C T 撮影及びM R I 撮影	(C・M) 第513号	平成24年 4月 1日
45	冠動脈C T 撮影加算	(冠動C) 第26号	平成20年 9月 1日
46	心臓M R I 撮影加算	(心臓M) 第40号	平成20年 9月 1日
47	抗悪性腫瘍剤処方管理加算	(抗悪処方) 第88号	令和 3年 9月 1日
48	外来化学療法加算 1	(外化1) 第154号	平成29年 8月 1日
49	外来化学療法加算 2	(外化2) 第14号	平成22年 9月 1日
50	無菌製剤処理料	(菌) 第45号	平成20年 4月 1日

51	心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	（心Ⅰ）第64号	平成29年 4月 1日
52	脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	（脳Ⅰ）第217号	令和 2年 4月 1日
53	運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	（運Ⅰ）第61号	平成24年 4月 1日
54	呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	（呼Ⅰ）第82号	平成24年 4月 1日
55	摂食嚥下機能回復体制加算 2（摂食機能療法）	（摂嚥回 2）第16号	令和 4年10月 1日
56	がん患者リハビリテーション料	（がんリハ）第49号	平成26年11月 1日
57	歯科口腔リハビリテーション料 2	（歯リハ 2）第129号	平成26年 4月 1日
58	抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）	（抗治療）第23号	令和元年10月 1日
59	医療保護入院等診療料	（医療保護）第49号	平成16年10月 1日
60	処置の休日加算 1、時間外加算 1、及び深夜加算 1	（医処休）第24号 （医処外）第24号 （医処深）第24号	令和 5年 1月 1日
61	静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）	（静圧）第36号	令和 4年 9月 1日
62	エタノールの局所注入（甲状腺に対するもの）	（エタ甲）第74号	平成27年 3月 1日
63	エタノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）	（エタ副甲）第41号	令和元年12月 1日
64	人工腎臓	（人工腎臓）第297号	令和 3年 8月 1日
65	導入期加算	（導入 1）第212号	令和 2年12月 1日
66	手術用顕微鏡加算	（手顕微加）第80号	平成28年 4月 1日
67	う蝕歯無痛的窩洞形成加算	（う蝕無痛）第117号	平成26年 4月 1日
68	CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	（歯CAD）第2512号	平成28年 4月 1日
69	皮膚悪性収容切除術 （センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る）	（セ節）第19号	令和 3年 6月 1日
70	手術時歯根面レーザー応用加算	（手術歯根）第60号	平成26年 4月 1日
71	骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	（自家）第7号	平成27年 4月 1日
72	椎間板内酵素注入療法	（椎酵注）第1号	令和 2年 4月 1日
73	内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	（内脳腫）第6号	令和 4年 4月 1日
74	脳刺激装置植込術（頭蓋内電極植込術を含む。）及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	（脳刺）第45号 （脊刺）第61号	平成27年 3月 1日
75	角結膜悪性腫瘍手術	（角結悪）第7号	令和 4年 4月 1日
76	羊膜移植術	（羊膜移）第8号	令和 4年 7月 1日
77	角膜移植術（内皮移植加算）	（内移）第9号	令和 5年 7月 1日
78	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術 （軟口蓋悪性腫瘍手術を含む）	（鏡咽悪）第16号	令和 4年 7月 1日
79	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	（鏡喉悪）第15号	令和 4年 7月 1日
80	上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。） （歯科診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）	（歯顎移）第8号	平成24年 4月 1日
81	乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネルリンパ節生検（併用）	（乳セ 1）第53号	平成25年 5月 1日
82	乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）	（乳セ 2）第53号	平成25年 5月 1日
83	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支系形成を伴う肺切除）	（胸腔形成）第16号	令和 4年 4月 1日
84	食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び陰腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）	（穿瘻閉）第34号	令和元年12月 1日
85	経皮的冠動脈形成術 （特殊カテーテルによるもの）	（経特）第62号	令和 2年 4月 1日
86	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	（ペ）第70号	平成10年 4月 1日

87	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 (リードレスペースメーカー)	(ペリ) 第26号	平成30年10月 1日
88	大動脈バルーンパンピング法 (I A B P法)	(大) 第38号	平成10年 4月 1日
89	腹腔鏡下リンパ節郭清術	(腹リ傍側) 第28号	令和 4年 4月 1日
90	腹腔鏡下十二指腸局所切除術 (内視鏡処置を併施するもの)	(腹十二局) 第15号	令和 3年 4月 1日
91	バルーン閉塞下経静脈的塞栓術	(バ経静脈) 第20号	平成30年12月 1日
92	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	(腹胆床) 第25号	令和 4年 4月 1日
93	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除 (葉以上)を伴うものに限る。)	(胆腫) 第21号	平成29年 4月 1日
94	体外衝撃波胆石破碎術	(胆) 第16号	平成11年 3月 1日
95	腹腔鏡下肝切除術	(腹肝) 第22号	平成29年 4月 1日
96	体外衝撃波膵石破碎術	(膵石破) 第7号	平成26年 4月 1日
97	腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	(腹膵切) 第35号	平成29年 3月 1日
98	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剝離術	(早大腸) 第29号	平成24年 5月 1日
99	内視鏡的小腸ポリープ切除術	(内小ポ) 第27号	令和 4年 4月 1日
100	腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方 切除術及び切断術に限る。)(内視鏡手術用支 援機器を用いる場合)	(腹直腸切支) 第17号	令和 4年 4月 1日
101	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	(腎) 第31号	平成10年12月 1日
102	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器 を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	(腹腎尿支器) 第12号	令和 4年 4月 1日
103	腹腔鏡下腎盂形成手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	(腹腎形支) 第10号	令和 3年10月 1日
104	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	(腹膀胱) 第18号	平成29年 8月 1日
105	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	(腹膀胱悪支) 第14号	令和 5年 2月 1日
106	人工尿道括約筋植込・置換術	(人工尿) 第11号	平成29年 9月 1日
107	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	(腹前) 第7号	平成26年 4月 1日
108	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	(腹前支器) 第15号	平成28年 7月 1日
109	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮体がんに限る。)	(腹子宮) 第2号	平成26年 4月 1日
110	腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機 器を用いる場合)	(腹子宮内支) 第21号	令和 6年 1月 1日
111	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対 して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	(腹子宮悪内支) 第16号	令和 6年 1月 1日
112	腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	(腹癒修) 第19号	令和 4年 4月 1日
113	手術の休日加算1、時間外加算1、及び深夜加算1	(医手休) 第29号 (医手外) 第29号 (医手深) 第29号	令和 5年 1月 1日
114	周術期栄養管理実施加算	(周栄養) 第14号	令和 4年 4月 1日
115	輸血管理料 I	(輸血 I) 第68号	令和 2年 4月 1日
116	輸血適正使用加算	(輸適) 第148号	令和 2年 4月 1日
117	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	(造設前) 第10号	平成24年 4月 1日
118	歯周組織再生誘導手術	(G T R) 第215号	平成20年 4月 1日
119	広範囲顎骨支持型装置埋入手術	(人工歯根) 第7号	平成24年 4月 1日
120	歯根端切除手術の注 3	(根切頭微) 第64号	平成28年 4月 1日
121	麻酔管理料 (I)	(麻管 I) 第2号	平成 8年 4月 1日
122	麻酔管理料 (II)	(麻管 II) 第9号	平成22年 4月 1日
123	歯科麻酔管理料	(歯麻管) 第6号	令和 2年 7月 1日
124	放射線治療専任加算	(放専) 第10号	平成12年 4月 1日
125	外来放射線治療加算	(外放) 第26号	平成20年 7月 1日
126	高エネルギー放射線治療	(高放) 第109号	平成18年 4月 1日
127	1回線量増加加算	(増線) 第27号	平成28年 2月 1日

128	強度変調放射線治療（IMRT）	（強度）第2号	平成22年 5月 1日
129	画像誘導放射線治療加算（IGRT）	（画誘）第6号	平成30年10月 1日
130	体外照射呼吸性移動対策加算	（体外策）第37号	令和 3年10月 1日
131	定位放射線治療	（直放）第14号	平成21年 6月 1日
132	定位放射線治療呼吸性移動対策加算	（定対策）第35号	令和 3年10月 1日
133	病理診断管理加算 2	（病理診 2）第24号	平成29年 3月 1日
134	悪性腫瘍病理組織標本加算	（悪病組）第44号	平成30年 9月 1日
135	クラウン・ブリッジ維持管理料	（補管）第2937号	平成 8年 4月 1日
136	看護職員処遇改善評価料63	（看処遇63）第3号	令和 4年10月 1日

医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる施設基準に係る届出
（対象期間 令和5年1月から令和5年12月まで）

区分	手術名	件数	
【区分Ⅰ】	1 頭蓋内腫瘍摘出術等	81件	
	2 黄斑下手術等	66件	
	3 鼓膜形成手術等	5件	
	4 肺悪性腫瘍手術等	112件	
	5 経皮のカテーテル心筋焼灼術	40件	
【区分Ⅱ】	1 靭帯断裂形成手術等	27件	
	2 水頭症手術等	26件	
	3 鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	0件	
	4 尿道形成手術等	9件	
	5 角膜移植術	22件	
	6 肝切除術等	89件	
	7 子宮付属器悪性腫瘍手術等	10件	
【区分Ⅲ】	1 上顎骨形成術等	3件	
	2 上顎骨悪性腫瘍手術等	16件	
	3 パセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）	0件	
	4 母指化手術等	1件	
	5 内反足手術等	0件	
	6 食道切除再建術等	5件	
	7 同種死体腎移植術等	0件	
【区分Ⅳ】	1	755件	
【区分Ⅴ】	1 人工関節置換術	154件	
	2 乳児外科施設基準対象手術	0件	
	3 ペースメーカー移植術及び交換術	37件	
	4 冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないものを含む）及び体外循環を要する手術	34件	
	5 経皮的冠動脈形成術	経皮的冠動脈形成術	73件
		・急性心筋梗塞に対するもの	2件
		・不安定狭心症に対するもの	4件
	6 経皮的冠動脈粥腫切除術	0件	
	7 経皮的冠動脈ステント留置術	経皮的冠動脈ステント留置術	99件
		・急性心筋梗塞に対するもの	10件
・不安定狭心症に対するもの		17件	
・その他のもの	72件		
【区分Ⅵ】	1 上顎骨形成術・単純	1件	

3 沿革

大正13年 7月 1日	川崎町、大師町及び御幸村の2町1村が合併（市制施行）
昭和 2年 4月30日	明治37年12月28日に設立された伝染病組合病院を川崎市立病院と改称
昭和11年12月16日	伝染病院として、川崎市立病院大規模改築整備の上、開院（院長以下21名、病床数96床）
昭和12年 3月15日	川崎市立新川病院と改称
昭和20年 6月 1日	総合病院に切替え（内科、外科、眼科、産婦人科、歯科及び耳鼻咽喉科の設置）、川崎市立川崎病院と改称
昭和22年 4月 1日	理学診療科の設置
昭和24年 1月 1日	皮膚泌尿器科の設置
昭和26年 7月 1日	小児科の設置
昭和26年11月 1日	婦人科病棟の完成（昭和42年11月北病棟完成に伴い撤去）
昭和27年 3月 1日	伝染病棟改築落成（昭和48年 5月東病棟建設に伴い撤去）
昭和28年 3月 1日	本館起工（第一期、第二期及び第三期工事に分けて施工）
昭和31年 5月 1日	整形外科の設置
昭和32年 8月 1日	総合病院の名称使用許可（昭和23年、法律第205号）
昭和32年12月 1日	厨房及び寄宿舍（第4号館）落成
昭和33年 4月 1日	神経科の設置
昭和33年10月 1日	基準看護（1類）の取得
昭和34年 6月 1日	本館の完成
昭和37年 5月 1日	厚生年金病棟（3号館）の完成
昭和39年 3月 1日	看護婦宿舍が完成
昭和39年 4月 1日	皮膚泌尿器科を皮膚科及び泌尿器科に分離 地方公営企業法の一部適用 川崎市立高等看護学院の実習病院
昭和40年 8月15日	救急病院に指定
昭和42年 4月 1日	研修医制度（3年制）の発足
昭和42年11月27日	北病棟（地下1階地上6階建及び旧2号館）が完成
昭和42年12月 2日	日本小児科学会認定の小児科専門医教育病院
昭和43年 2月 8日	日本内科学会認定の内科専門医教育病院
昭和43年 7月16日	厚生省指定の臨床研修病院
昭和44年 3月31日	放射線治療室の完成
昭和44年 5月15日	児童福祉施設第1種助産施設として認可
昭和45年 1月 1日	消化器科及び脳神経外科の設置
昭和45年 6月10日	日本脳神経外科学会認定の脳神経外科専門医教育病院
昭和45年11月19日	職員厚生会館の完成
昭和46年 4月 1日	麻酔科の設置、産婦人科を産科及び婦人科に分離
昭和46年11月 1日	特殊医療部及び教育指導部の設置
昭和47年 2月 1日	基準看護（特類）の実施

昭和48年 4月 1日 経理課の設置

昭和49年 4月 1日 食養科の設置

昭和49年10月 1日 基準看護（特2類）の実施

昭和50年10月14日 東病棟（旧1号館）の完成

昭和51年 4月 1日 精神科の設置
永年カルテ制度（1患者1病歴制度）の採用

昭和51年 5月 1日 血液センターの設置

昭和51年 6月 1日 中央採血室の設置
施設の名称を本館（旧本館）、1号館（旧東病棟）、2号館（旧北病棟）、
3号館（旧厚生年金病棟）及び4号館（旧教育指導棟）に変更

昭和52年 4月 1日 臨床研修医制度（2年制）の発足
医事課に入院用コンピュータの導入

昭和52年 5月 1日 1号館5階感染症病棟の開設

昭和52年10月 5日 ICU開設準備室の開設

昭和52年10月31日 腎センターの開設

昭和53年 4月 1日 病院事業部の設置に伴い経理課を廃止
看護師を初めて採用
病院群輪番制運営事業参加

昭和53年 6月28日 1号館3階総合病棟の開設

昭和53年 9月11日 ICU準備室をICU病棟として開設

昭和53年11月 1日 医事課に外来用コンピュータの導入

昭和54年 3月31日 日本病理学会の認定病院

昭和54年 5月 2日 本館内科病棟の名称を内科西病棟及び内科東病棟に変更
3号館内科病棟を休床して本館内科東病棟に移転

昭和54年 5月15日 1号館4階総合病棟の開設

昭和54年10月 2日 日本外科学会の認定医修練施設

昭和55年 1月 1日 日本麻酔学会の認定指導病院

昭和55年 4月 1日 看護科病棟部門の週44時間体制

昭和56年 6月 1日 病床数を733床（一般683、伝染50）に変更

昭和58年 4月11日 日本整形外科学会の認定医制度研修施設

昭和58年10月 1日 日本眼科学会の専門医研修施設

昭和59年 4月 1日 食養科調理部門の週48時間体制

昭和60年 1月 1日 日本消化器外科学会の専門医修練施設

昭和60年 1月 1日 副院長2人制の導入

昭和60年 1月19日 日本耳鼻咽喉科学会の専門医研修施設

昭和61年 4月 1日 日本泌尿器科学会の専門医教育施設

昭和62年 4月 1日 日本皮膚科学会の認定医研修施設

昭和63年 3月29日 外国医師又は外国歯科医師の臨床修練指定病院

昭和63年 4月 1日 日本産婦人科学会の認定医制度卒後研修指導施設

昭和63年 6月 1日 基準看護（特3類）を小児科病棟で取得

昭和63年 9月 1日 基準看護（特3類）を産科及び分娩病棟で取得

平成元年 4月 1日 看護部制の実施
臨床クラーク業務の委託

平成 2年12月 1日 基準看護（特3類）を取得
本館総合病棟、1号館4階小児病棟、1号館4階未熟室、1号館4階総合病棟、2号館4階外科病棟、2号館5階病棟及び3号館婦人科病棟で取得

平成 3年 4月 1日 在宅ねたきり患者処置指導管理の取得
看護の日・看護週間の制定

平成 3年 5月 1日 在宅酸素療法指導管理の取得

平成 4年10月 1日 電動ギャッチベッド100台導入。その後順次導入

平成 5年 3月21日 完全週休2日制に伴い第2土曜日及び第4土曜日外来診療全科の休診

平成 5年 4月 1日 理学診療科を放射線科に変更

平成 6年 3月27日 完全週休2日制に伴い全土曜日外来診療全科の休診

平成 6年 4月 1日 心臓血管外科の設置

平成 6年10月 1日 新看護2対1（A）看護の取得（全病棟）
医事業務の全面委託

平成 6年11月 1日 夜間勤務看護（加算）の取得

平成 7年 3月 1日 新設された看護短大へ看護専門学校を移転

平成 7年 4月 1日 在宅医療部の設置
管理当直業務の委託

平成 7年 6月 1日 適時適温給食の開始

平成 7年 7月 1日 看護専門学校及び看護宿舍の解体開始

平成 7年 7月19日 新病院建設着工

平成 7年10月11日 自走式二階建駐車場の設置（収容62台）

平成 7年12月14日 新病院建設起工式

平成 8年 4月 1日 事務室から事務局に改変
助産師職認定

平成 9年 1月10日 新病院立柱式

平成 9年 3月 1日 リハビリテーション科の設置

平成 9年 3月31日 看護専門学校の閉校

平成 9年 4月 1日 リウマチ科及び歯科口腔外科の設置
副院長3人制に変更
移転準備担当の設置
衛生局から健康福祉局へ機構改革

平成 9年12月18日 新病院の上棟式

平成10年 3月20日 神奈川県知事から災害医療拠点病院の指定

平成10年 4月 1日 呼吸器科、呼吸器外科、総合診療科及び感染症科の設置
在宅医療部から地域医療部へ名称変更
特殊医療部が発展的解消

平成10年 4月 1日 食養科（特食以外）業務の委託
中央器材室滅菌消毒業務の委託
補修室縫製等業務の委託
中央監視室（受電・空調・ボイラー）業務の委託

平成10年 7月15日 日本プライマリ・ケア学会の認定医研修施設

平成10年10月21日 新病院病棟・中央診療棟完成

平成10年11月 1日 物流管理（SPD）・滅菌消毒・ME（医療器機中央管理）業務の委託
管理系施設管理業務の委託
ハウスキーパー業務の委託
検体系検査（医化学・血清・一般・血液）業務の委託

平成10年11月10日 病棟・中央診療棟竣工式

平成10年11月24日 病棟・中央診療棟開設
新棟にて病棟及び一部外来の運用開始
病床種別（一般683床、伝染30床、精神20床）を変更
医療情報システム（HUMAN）稼動
9階北病棟に精神科病棟（20床、新看護3対1（A）・6対1看護補助）の開設

平成10年12月25日 インターネット上に川崎病院ホームページ開設
（<http://www.city.kawasaki.jp/35/35kawsyo/home/index.html>）

平成11年 1月 1日 NICU（新生児特定集中治療室）開設（平成13年1月辞退）

平成11年 2月 1日 川崎南部訪問看護ステーション（川崎市看護協会）を院内に設置

平成11年 4月 1日 副院長2人制に変更
標榜科目から神経科を削除
電話交換業務の委託

平成11年 5月 1日 リハビリテーション科で作業療法を開始

平成11年 6月 1日 9階精神科病棟20床から38床へ病床数の変更

平成11年 7月 1日 リハビリテーション科で言語療法を開始

平成11年10月26日 薬剤科で無菌製剤処理の実施

平成11年12月 1日 日本消化器内視鏡学会の認定指導施設

平成11年12月21日 遠隔医療協力モデル事業（川崎市及び慶應義塾大学医学部）の記者発表

平成12年 3月30日 川崎市立川崎病院外来病棟の竣工式

平成12年 3月31日 井田病院が研修指定病院となったため、川崎病院が従病院となる

平成12年 4月 1日 病院移転担当（庶務課主幹）の廃止
看護助手業務の委託
9階精神科病棟、精神保健及び精神障害福祉に関する法律第19条の8の規定に基づく指定病院（4床設置）

平成12年 4月24日 外来診療部門の全面オープン

平成12年 5月 1日 8階小児科病棟（小児科46床、未熟児室14床）の病床数変更

平成12年 5月 7日 14階南（内科）病棟のオープン

平成12年 6月 1日 神奈川県精神救急医療事業の基幹病院

- 平成13年 1月21日 脳死判定による臓器摘出手術の実施
- 平成13年 3月30日 外構工事完了
- 平成13年 3月30日 川崎市立川崎病院の基本理念建立除幕式
- 平成13年 4月 1日 新病院完成
- 平成13年 4月 1日 有料駐車場（駐車台数202台）のオープン
- 平成13年 4月 2日 川崎駅ー川崎病院間の直通ワンコインバスの運行開始
- 平成14年 3月 1日 産婦人科で体外受精による治療の開始
- 平成14年 4月 1日 川崎病院組織改革
内視鏡室、血液透析室、救急部及び小児急病センターを新設
地域医療部及び医療相談室が医事課へ移管
地域医療部及び訪問看護部門が看護部へ移管
- 平成14年 4月 9日 精神科救急24時間体制の開始
- 平成14年 4月15日 川崎病院内に小児急病センターの開設
- 平成14年12月 1日 院内駐車場保守業務の委託
- 平成15年 4月 1日 川崎病院の機構改革
院外処方の開始
食養科調理業務の全面委託
看護助手業務の全面委託
ナースキャップの廃止
- 平成15年 4月 6日 薬剤師、臨床検査技師及び放射線技師の勤務が変則勤務体制に変更
- 平成15年 7月 1日 「患者さんの権利」及び「患者さんへのお願い」を制定
- 平成15年 8月 1日 受動喫煙を防止する法律（健康増進法）の施行に伴い、院内禁煙
- 平成15年10月20日 川崎病院通信「くすの木」創刊号発行
- 平成15年12月 2日 重症急性呼吸器症候群（SARS）搬送訓練
- 平成16年 2月17日 医療安全管理室の設置
- 平成16年 4月 1日 副院長3人制に変更
- 平成16年 9月 1日 1階外来飲食コーナーの設置
- 平成16年10月17日 病院機能評価受審
～19日
- 平成17年 3月23日 外来治療センターの開設
- 平成17年 4月 1日 病院局の設置
地方公営企業法の全部適用
- 平成17年 7月 1日 救急センターの開設
- 平成17年10月 3日 当院で日本初の西ナイル熱患者発生を届出
- 平成17年11月26日 川崎消防署と合同で災害時医療訓練を実施
- 平成18年 1月23日 (財)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定
- 平成18年 4月 1日 川崎病院組織改革
救命救急センターの開設
- 平成18年 4月 1日 放射線科から放射線診断科及び放射線治療科へ組織変更
薬剤科から薬剤部へ組織変更

	集中治療部新設
	診療部長制度新設
平成18年10月28日	神奈川県災害医療拠点病院合同災害医療対策訓練及び消防局航空隊ヘリコプターによる救急患者搬送等訓練
平成19年 2月 5日	ヘリポートに夜間照明を設置
平成19年 4月 1日	副院長4人制に変更
	消化器外科新設
	脳血管外科新設
	血管外科新設
	救急科新設
	アドボカシー相談員配置
平成19年11月 1日	CRC事務室設置
平成20年 4月 1日	院内感染対策担当新設
	肝臓内科新設
	冠疾患集中治療室新設
	婦人内視鏡科新設
平成20年 6月 2日	市内救急医療派遣事業（Kawasaki ONE PIECE）開始
平成20年10月 1日	日本口腔外科学会認定関連研修施設
平成21年 1月 1日	新総合医療情報システム（HOPE/EGMAIN-GX）稼働
平成21年 4月 1日	新生児集中治療管理室（NICU）再開
平成21年 4月 1日	新生児科新設
平成21年 7月 1日	DPC導入
平成21年 7月 7日	川崎DMAT（災害医療派遣チーム）設置病院として指定
平成21年11月12日	第48回全国自治体病院学会を川崎市（サンピアンかわさき）で開催
～19日	学会長 市立川崎病院長 長 秀男
平成22年 4月 1日	神奈川県周産期救急医療システム中核病院として指定
平成22年 4月 1日	神奈川県地域周産期母子医療センターとして認定
平成22年 4月 1日	臨床研究支援室の設置
平成22年12月 1日	卒後臨床研修評価機構による認定を受ける
平成23年 3月23日	神奈川DMAT指定病院として指定
平成24年 4月 1日	事務局担当部長配置
平成24年 4月 1日	医療相談室が地域医療部へ移管
平成24年 5月 1日	糖尿病内科新設
	内分泌内科新設
	腎臓内科新設
	小児外科新設
	乳腺外科新設
平成24年 5月 1日	循環器科、新生児科、耳鼻いんこう科及び感染症科から循環器内科、新生児内科、耳鼻咽喉科及び感染症内科へ組織名変更
平成24年 8月 7日	病床数を713床（一般663、精神38、感染12）に変更

平成24年10月20日	川崎市立3病院合同災害医療訓練及び消防局航空隊ヘリコプターによる重症患者等搬送訓練
平成24年11月1日	7:1看護配置の取得
平成24年11月26日	ER初療ベッドを10床に増設
平成24年12月1日	卒後臨床研修評価機構による認定を受ける (H24.12.1～H30.11.30)
平成25年3月1日	助産外来開設
平成25年4月1日	リウマチ科からリウマチ膠原病・痛風センターへ組織名変更 腫瘍内科新設 ペインクリニック内科新設 アレルギー科新設
平成26年4月1日	血液内科新設
平成27年4月1日	庶務課に企画調整担当を設置 内視鏡室から内視鏡センターへ組織名変更 医師及び歯科医師の給与制度改正
平成27年9月11日	神奈川DMA T (川崎病院隊) 茨城県常総市へ派遣
平成27年12月15日 ～16日	病院機能評価受診
平成28年1月1日	「病院の基本理念」「病院運営基本方針」「患者さんの権利」「臨床における倫理指針」を「川崎市立川崎病院基本理念」「病院運営方針」「患者さんの権利」「患者さんの責務」「患者さんへのお願い」に改定
平成28年1月23日	(公)日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定
平成28年2月3日	救命救急センター10周年記念講演会開催
平成28年3月30日	地域医療支援病院の名称承認
平成28年4月18日	神奈川DMA T (川崎病院隊) 熊本県阿蘇市へ派遣
平成28年7月	手術支援ロボット(ダビンチ)の本格稼働
平成28年8月	緩和ケア内科外来の設置 がん相談支援センターの開設
平成29年3月23日	神奈川県がん診療連携指定病院の指定
平成29年4月1日	高度脳神経治療センターの設置
平成30年3月	川崎病院医療機能再編整備基本計画の策定
平成30年4月1日	患者総合サポートセンターの設置 PET-CTの本格稼働
平成30年9月6日	神奈川DMA T 隊員北海道胆振東部地震対応のため派遣
平成30年10月30日	卒後臨床研修評価機構による認定更新
平成31年4月1日	神奈川県難病医療支援病院の指定
平成31年4月	2階喫茶店跡地に休憩室(飲食コーナー)を設置
平成31年4月	駐車場の民営化・駐輪場再整備
令和元年6月	川崎市包括外部監査受審
令和元年8月	院内投書掲示板の設置
令和2年2月1日	災害医療企画室の設置

令和 2年 2月25日	川病キャッチコピー「チームでつなぐ地域の未来」決定
令和 2年 2月	ダイヤモンドプリンセス号における新型コロナウイルス感染患者対応 及び市中感染患者対応
令和 2年 4月	新型コロナ対策として面会制限及び電話再診を開始
令和 2年 4月	つつじ外来（発熱者専用診療ブース）の設置
令和 2年 5月	LAMP法（遺伝子検査）の導入
令和 2年 5月	神奈川モデルにおける高度医療機関及び重点医療機関の認定
令和 2年 7月	総合入院体制加算2の取得
令和 2年 8月	くすのきボックス（検体採取専用スペース）の設置
令和 2年 9月	大都市感染症指定医療機関会議を開催
令和 2年12月14日 ～15日	病院機能評価受審
令和 3年 2月	エネルギー棟建設工事着手
令和 3年 4月	無菌治療室（5床）の開設
令和 3年 4月	もの忘れ外来の開始
令和 3年 6月	（公）日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定（3rdG:Ver. 2.0）
令和 3年 7月	ロボット手術センターの開設
令和 3年 8月	認知症疾患医療センター（地域型）の開設
令和 3年11月	全国公立病院連盟総会・事務長会・看護部長会合同会議を開催
令和 4年 3月	川崎市応急入院指定病院の指定
令和 4年 3月	ひまわりビレッジの設置（つつじ外来の拡充・移設）
令和 4年 4月	がん診療連携拠点病院の指定
令和 5年 4月	脊椎脊椎病センターの開設
令和 5年 8月	エネルギー棟、給水棟竣工、エネルギーサービス事業開始
令和 5年10月	紹介受診重点医療機関として公表
平成 6年 1月22日 ～29日	神奈川DMAT（川崎病院隊）能登半島地震対応のため派遣
令和 6年 2月	能登半島地震 災害支援看護師の派遣

5 人事の変遷（令和5年4月1日現在）

	歴代	氏名	在任期間
病院長	初代	竹山且子	昭和10年 9月 5日 ～ 昭和17年11月 9日
	2代	依田 稔	昭和16年 7月18日 ～ 昭和18年 4月 2日
	3代	博田 三雄治	昭和18年 4月 2日 ～ 昭和27年 7月24日
	4代	宮尾 啓	昭和27年 7月25日 ～ 昭和39年 9月 1日
	5代	勝 正 孝	昭和39年 9月 1日 ～ 昭和50年 8月31日
	6代	山本 浩	昭和50年 9月 1日 ～ 昭和53年 2月 1日
	7代	藤森 一 平	昭和53年 2月 1日 ～ 昭和61年11月30日
	8代	林 茂	昭和61年12月 1日 ～ 平成 6年 3月31日
	9代	入交 昭一郎	平成 6年 4月 1日 ～ 平成11年 3月31日
	10代	岩田 嘉行	平成11年 4月 1日 ～ 平成12年 3月31日
	11代	武内 可尚	平成12年 4月 1日 ～ 平成15年 3月31日
	12代	秋月 哲史	平成15年 4月 1日 ～ 平成20年 3月31日
	13代	長 秀 男	平成20年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日
	14代	堀内 行雄	平成22年 4月 1日 ～ 平成25年 3月31日
	15代	増田 純一	平成25年 4月 1日 ～ 平成28年 3月31日
	16代	成松 芳明	平成28年 4月 1日 ～ 平成31年 3月31日
	17代	金井 歳雄	平成31年 4月 1日 ～ 令和 3年 8月31日
	18代	野崎 博之	令和 3年 9月 1日 ～ 現在に至る。
理事 担当理事		堀内 行雄	平成21年 4月 1日 ～ 平成22年 3月31日
		増田 純一	平成24年 4月 1日 ～ 平成25年 3月31日
		林 保良	平成24年 4月 1日 ～ 平成29年 3月31日
		堀内 行雄	平成25年 4月 1日 ～ 平成26年 3月31日
		番場 正博	平成27年 4月 1日 ～ 平成30年 3月31日
副院長	初代	宮尾 啓	昭和26年 1月23日 ～ 昭和27年 7月24日
	2代	高村 長治	昭和34年 8月 1日 ～ 昭和36年 9月 1日
	3代	勝 正 孝	昭和36年12月 1日 ～ 昭和39年 8月31日
	4代	石田 堅一	昭和39年 9月 1日 ～ 昭和45年 3月31日
	5代	山本 浩	昭和45年 4月 1日 ～ 昭和50年 8月31日
	6代	藤森 一 平	昭和50年 9月 1日 ～ 昭和53年 1月31日
	7代	菅野 卓郎	昭和53年 2月 1日 ～ 昭和56年 3月31日
	8代	斉藤 敏明	昭和56年 4月 1日 ～ 昭和62年 3月31日
	9代	鹿野 達男	昭和60年 1月 1日 ～ 平成 6年 3月31日
	10代	入交 昭一郎	昭和61年12月 1日 ～ 平成 6年 3月31日
	11代	山本 泰秀	平成 6年 4月 1日 ～ 平成11年 3月31日
	12代	岩田 嘉行	平成 6年 4月 1日 ～ 平成11年 3月31日

13代	松岡康夫	平成9年4月1日	～	平成15年3月31日
14代	武内可尚	平成11年4月1日	～	平成12年3月31日
15代	納賀克彦	平成12年4月1日	～	平成17年3月31日
16代	堀内行雄	平成15年4月1日	～	平成21年3月31日
17代	篠原弘子	平成16年4月1日	～	平成20年3月31日
18代	関賢一	平成17年4月1日	～	平成21年3月31日
19代	長秀男	平成19年4月1日	～	平成20年3月31日
20代	成松芳明	平成20年4月1日	～	平成28年3月31日
21代	齊田和子	平成20年4月1日	～	平成25年3月31日
22代	久場川哲二	平成21年4月1日	～	平成22年3月31日
23代	竹中信夫	平成21年4月1日	～	平成30年3月31日
24代	増田純一(兼)	平成22年4月1日	～	平成25年3月31日
25代	番場正博	平成25年4月1日	～	平成27年3月31日
26代	綱嶋たかえ	平成25年4月1日	～	平成30年3月31日
27代	宮川俊一	平成27年4月1日	～	令和2年3月31日
28代	大曾根康夫	平成28年4月1日	～	令和3年3月31日
29代	小柳貴裕	平成30年4月1日	～	令和2年3月31日
30代	千島美奈子	平成30年4月1日	～	令和5年3月31日
31代	野崎博之	令和2年4月1日	～	令和3年8月31日
32代	上田誠司	令和2年4月1日	～	令和6年3月31日
33代	澤藤誠	令和3年4月1日	～	現在に至る。
34代	齋藤寿昭	令和4年4月1日	～	現在に至る。
35代	藤原実香	令和5年4月1日	～	現在に至る。

事務長

初代	海野才知	昭和20年6月1日	～	昭和21年8月23日
2代	白倉謙一	昭和21年8月24日	～	昭和27年7月24日
3代	宇田川政之	昭和27年7月25日	～	昭和29年8月27日
4代	石井一郎	昭和29年8月28日	～	昭和30年7月31日
5代	石井英夫	昭和30年8月1日	～	昭和37年4月30日
6代	竹山忠雄	昭和37年5月1日	～	昭和40年3月31日
7代	森己之松	昭和40年4月1日	～	昭和42年10月31日
8代	塚原重年	昭和42年11月1日	～	昭和44年3月31日
9代	小熊栄次	昭和44年4月1日	～	昭和47年10月4日
10代	遠藤文郎	昭和47年10月5日	～	昭和47年12月13日
11代	田代穆彦	昭和47年12月23日	～	昭和54年4月30日
12代	重岡賢治	昭和54年5月1日	～	昭和57年1月31日
13代	上野松治	昭和57年2月1日	～	昭和62年3月31日
14代	岡庭英昭	昭和62年5月1日	～	平成元年3月31日
15代	白鳥房夫	平成元年4月1日	～	平成3年3月31日
16代	藤井健司	平成3年4月1日	～	平成5年3月31日

事務局長	17代	鈴木 嗣 明	平成 5年 4月 1日	～	平成 6年 3月31日
	18代	斎藤 至 旦 (経営担当理事)	平成6年4月1日	～	平成 8年 3月31日
	19代	蟹江 徹 也 (経営担当理事)	平成8年4月1日	～	平成10年 3月31日
	20代	菊池 敏 彦 (経営担当理事)	平成10年4月1日	～	平成11年 3月31日
	21代	山本 栄 一 (経営担当理事)	平成11年4月1日	～	平成13年 3月31日
	22代	石井 洋二郎 (経営担当理事)	平成13年4月1日	～	平成14年 3月31日
	23代	佐藤 猛 (経営担当理事)	平成14年4月1日	～	平成15年 3月31日
	24代	添田 真 郷	平成15年 4月 1日	～	平成17年 3月31日
	25代	鈴木 康 夫	平成17年 4月 1日	～	平成20年 3月31日
	26代	佐々木 元 行	平成20年 4月 1日	～	平成21年 3月31日
	27代	高井 敏 雄	平成21年 4月 1日	～	平成26年 3月31日
	28代	柄崎 智	平成26年 4月 1日	～	平成28年 3月31日
	29代	田邊 雅 史	平成28年 4月 1日	～	平成29年 3月31日
	30代	林 徳 厚	平成29年 4月 1日	～	令和 3年 3月31日
	31代	岡 正	令和 3年 4月 1日	～	令和 5年 3月31日
32代	渡辺 貴 彦	令和 5年 4月 1日	～	令和 6年 3月31日	

総 婦 長	初代	植 田 まき子	昭和20年 6月 1日	～	昭和39年 9月30日
	2代	船 場 宮 子	昭和39年10月 1日	～	昭和53年 6月30日
	3代	久保田 好 實	昭和53年 7月 1日	～	昭和58年 9月30日
	4代	加治木 ユ リ	昭和58年10月 1日	～	昭和61年 3月31日
	5代	高 木 昌 子	昭和61年 4月 1日	～	昭和62年 4月30日
看護部長	6代	久保田 好 實	昭和62年 5月 1日	～	平成 2年 3月31日
	7代	庄 崎 雅 子	平成 2年 4月 1日	～	平成 7年 3月31日
	8代	高 木 サカエ	平成 7年 4月 1日	～	平成10年 3月31日
	9代	強 矢 智恵子	平成10年 4月 1日	～	平成13年 3月31日
	10代	釣 卷 慈 子	平成13年 4月 1日	～	平成15年 3月31日
	11代	篠原 弘 子 (兼)	平成15年 4月 1日	～	平成20年 3月31日
	12代	齊 田 和 子 (兼)	平成20年 4月 1日	～	平成25年 3月31日
	13代	綱 嶋 たかえ (兼)	平成25年 4月 1日	～	平成30年 3月31日
	14代	千 島 美奈子 (兼)	平成30年 4月 1日	～	令和 5年 3月31日
	15代	藤 原 実 香 (兼)	令和 5年 4月 1日	～	現在に至る。

救命センター長 救命救急 センター所長	初代	石 井 誠一郎	平成17年 4月 1日	～	平成18年 3月31日
	初代	石 井 誠一郎	平成18年 4月 1日	～	平成21年 3月31日
	2代	堀 内 行 雄 (兼)	平成21年 4月 1日	～	平成22年 3月31日
	3代	竹 中 信 夫 (兼)	平成22年 4月 1日	～	平成27年 3月31日
	4代	田 熊 清 継	平成27年 4月 1日	～	現在に至る。

高度脳神経治療	初代	今 西 智 之	平成29年 4月 1日	～	令和 4年 3月31日
センター所長	2代	小野塚 聡	令和 4年 4月 1日	～	令和 6年 3月31日
患者総合サポート	初代	大曾根 康 夫 (兼)	平成30年 4月 1日	～	令和 3年 3月31日
センター所長	2代	澤 藤 誠 (兼)	令和 3年 4月 1日	～	現在に至る。

6 診療科名簿

(令和6年3月31日 現在)

病院長 野崎博之
副院長 上田誠司
副院長 澤藤誠
副院長 齋藤寿昭
副院長兼
看護部長 藤原実香

【内科】

部長 安藤孝
医長 井上健太郎
医長 深江智明
医長 北薊久雄
副長 布施彰久
副医長 相馬裕樹
副医長 花田亮太
副医長 相馬裕樹

【総合内科】

部長 高木英恵
副医長 安部恭嗣
藤澤まり
桃原理子
池田慶介
伊藤敬
三枝信太郎
眞鍋佳世
佐藤翠
吉田昇悟
本宮寛人
吉田昌平
齋藤直宏
高木大歩
祖田真奈

三崎美佳

【腫瘍内科】

部長(兼) 定平 健

【呼吸器内科】

部長 佐山宏一
医長 大森奈緒
医長 大塚健悟
副医長 杉原快
副医長 李 昊

【循環器内科】

部長 末吉浩一郎
担当部長 李 慧崇
担当部長 伯野大彦
副医長 明神聡介

【冠動脈集中治療室】

室長 西澤健也
医長 伊藤桂

【消化器内科】

部長 玉井博修
担当部長 有泉健
医長 鈴木健
副医長 町田雄二郎
副医長 下 啓太郎

【血液内科】

部長 定平 健
副医長 岡山幹夫

【糖尿病内科】

部長(兼) 安藤孝
副医長 大嶋洋佑

【内分泌内科】
部長(兼)安藤 孝

女屋 悠
神人 悠

【腎臓内科】
部長(兼)安藤 孝
副医長 川口 隆久

【呼吸器外科】
部長(兼)澤藤 誠
担当部長 岩丸 有史
医長 奥井 将之

【脳神経内科】
部長(兼)野崎 博之

【心臓血管外科】
部長(兼)澤藤 誠
医長 灰田 周史
副医長 船石 耕士
(兼) 森 厚夫

【感染症内科】
部長 坂本 光男

【リウマチ膠原病・痛風センター】
所長 田口 博章
副医長 梶尾 暢彦

【消化器外科】
部長 三原 規奨

【ペインクリニック内科】
部長(兼)森田 慶久

【乳腺外科】
部長 萬谷 京子

【肝臓内科】
部長(兼)玉井 博修

【小児外科】
部長(兼)市東 昌也

【緩和ケア内科】
部長(兼)安藤 孝
(兼) 梶谷 美砂

【血管外科】
部長 和多田 晋
副医長 細川 恭佑

【アレルギー科】
部長 吉川 賢忠

【整形外科】
部長 小宮 浩一郎
担当部長 山口 健治
部長(兼)西脇 正夫
担当部長 竹内 克仁
担当部長 三戸 一晃
担当部長 西村 空也
医長 瀬戸 貴之
医長 伊藤 修平

【外科】
部長 市東 昌也
担当部長 小倉 正治
医長 菊池 弘人
医長 雨宮 隆介
中間 麻矢子

副 医 長 養 田 裕 平
石 原 啓 成
廣 瀬 俊 啓
時 枝 啓 太

【形成外科】

部 長 西 脇 正 夫
副 医 長 角 美 帆
寺 島 理 佐

【脳神経外科】

部 長 片 山 真
担当部長 富 田 栄 幸
担当部長 井 上 賢
副 医 長 高 原 健 人

【高度脳神経治療センター】

所 長 小 野 塚 聡

【内視鏡センター】

所 長 (兼) 澤 藤 誠
副 所 長 (兼) 井 上 健 太 郎

【精神科】

部 長 (兼) 齋 藤 寿 昭
医 長 三 浦 孝 政
副 医 長 倉 持 信
太 田 真 右
鈴 木 美 里
宇 田 川 梨 沙

【小児科】

部 長 土 橋 隆 俊
担当部長 有 安 大 典
担当部長 亀 井 聡 信
担当部長 檜 林 敦

担当部長 柴 田 浩 憲
担当部長 松 尾 基 視
医 長 外 山 陽 子
医 長 吉 田 祐
副 医 長 案 納 あ つ こ
阿 久 津 朱 伽
大 河 内 達 也
佐 藤 光

【新生児内科】

部 長 森 和 広
担当部長 古 川 律 子
副 医 長 長 田 朝 美
副 医 長 上 田 明 歩
可 児 圭 丞

【皮膚科】

部 長 (兼) 原 智
医 長 西 本 周 平
田 原 海
新 川 紗 由 香

【泌尿器科】

部 長 原 智
医 長 大 門 達 明
医 長 勝 井 政 博
副 医 長 梅 田 浩 太
副 医 長 大 村 美 波
倉 堀 智 一

【産科・婦人科】

部 長 中 田 さ くら
専任部長 林 保 良
担当部長 染 谷 健 一
担当部長 金 善 恵

医 長 石 垣 順 子
副 医 長 大 橋 千 恵
副 医 長 大 石 真 希
副 医 長 椎 名 美 希
副 医 長 吉 村 拓 馬
倉 堀 智 一
富 倉 彩 加
鈴 木 友 浩

【眼科】

部長（兼） 上 田 誠 司
医 長 三 田 村 浩 人
副 医 長 小 澤 紘 子
副 医 長 藤 岡 俊 平
片 山 泰 一 郎
長 谷 川 岳 史
矢 島 夢 実

【耳鼻咽喉科】

部 長 重 富 征 爾
副 医 長 立 之 大 智
吉 田 有 砂
高 原 美 希
田 中 祥 子

【リハビリテーション科】

部 長 阿 部 玲 音
木 村 泰 介
中 山 ゆ き

【放射線診断科】

部 長 倉 田 忠 宜
担当部長 長 谷 川 市 郎
担当部長 緒 方 雄 史
副 医 長 東 田 直 樹
酒 井 浩 人

岡 本 沙 織

【放射線治療科】

部 長 栗 林 徹
担当部長 關 智 史

【麻酔科・集中治療部】

部 長 森 田 慶 久
担当部長 菅 規 久 子
担当部長 梶 谷 美 砂
医 長 奥 田 淳
医 長 出 野 智 史
医 長 高 橋 京 助
医 長 平 畑 枝 里 子
副 医 長 石 渡 博 昭
副 医 長 鶴 澤 侑 子
副 医 長 藤 田 夏 樹
安 達 薫
古 川 貴 子
山 原 え り か
水 岡 史 明
岡 部 久 美 子
瀬 上 和 貴

【病理診断科】

部 長 折 笠 英 紀
杉 浦 仁

【検査科】

部 長 津 村 和 大

【歯科口腔外科】

部 長 鬼 澤 勝 弘
担当部長 安 居 孝 純
田 中 健 太

【救命救急センター・救急科】

所 長	田 熊 清 継
部 長	上 野 浩 一
副 所 長	齋 藤 豊
医 長	金 尾 邦 生
副 医 長	三 吉 貴 大
副 医 長	土 屋 光 正
副 医 長	金 子 翔太郎
副 医 長	鳥 海 聡
副 医 長	藤 田 野々香
	浦 上 尚 也
	根 本 悠 太

退職者及び院外異動者

*印は院外異動者

医 師

細 田 智 弘	平成26年4月1日	～	令和5年6月30日	高 木 大 歩	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
安 里 輝	令和4年4月1日	～	令和5年6月30日	眞 鍋 佳 世	令和3年4月1日	～	令和6年3月31日
権 名 美 季	令和5年4月1日	～	令和5年8月31日	三 崎 美 佳	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
鈴 木 健	令和2年4月1日	～	令和5年9月30日	本 宮 寛 人	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
茂 田 啓 介	令和3年4月1日	～	令和5年10月31日	吉 田 昇 悟	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
猪 狩 雄 一	平成30年4月1日	～	令和5年10月31日	吉 田 昌 平	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
下 寄 啓 太 郎	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日	藤 澤 ま り	令和6年1月1日	～	令和6年3月31日
西 脇 正 夫	平成26年4月1日	～	令和6年3月31日	渡 辺 雄 祐	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
富 田 栄 幸	令和5年10月1日	～	令和6年3月31日	神 人 悠	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
高 原 健 人	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日	石 原 啓 成	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
角 美 帆	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日	廣 瀬 俊 啓	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
倉 持 信	令和3年4月1日	～	令和6年3月31日	寺 島 理 佐	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
吉 田 祐	平成31年4月1日	～	令和6年3月31日	太 田 真 右	令和4年4月1日	～	令和6年3月31日
勝 井 政 博	平成29年4月1日	～	令和6年3月31日	鈴 木 美 里	令和4年4月1日	～	令和6年3月31日
大 門 達 明	令和5年12月1日	～	令和6年3月31日	永 田 梨 紗	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
高 橋 京 助	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日	佐 藤 光	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
齋 藤 豊	平成21年4月1日	～	令和6年3月31日	阿 久 津 朱 伽	令和4年10月1日	～	令和6年3月31日
三 吉 貴 大	平成28年7月1日	～	令和6年3月31日	倉 堀 智 一	令和5年10月1日	～	令和6年3月31日
小 野 塚 聡	平成23年4月1日	～	令和6年3月31日	富 倉 彩 加	令和5年10月1日	～	令和6年3月31日
				高 原 美 希	令和3年4月1日	～	令和6年3月31日
				萬 年 祥 子	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
				木 村 泰 介	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
				酒 井 浩 人	令和4年10月1日	～	令和6年3月31日
				岡 本 紗 織	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
				安 達 薫	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
				山 原 え り か	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日

会計年度任用職員医師・歯科医師

林 浩 一	令和3年4月1日	～	令和5年9月30日
* 岩 楯 洋 祐	令和5年4月1日	～	令和5年9月30日
伊 藤 ゆ り か	令和4年10月1日	～	令和5年9月30日
田 邊 蓉 子	令和5年4月1日	～	令和5年9月30日
畑 崎 優 花	令和5年4月1日	～	令和5年9月30日
豊 原 雅 人	令和3年4月1日	～	令和5年9月30日
藤 田 真 優 子	令和4年10月1日	～	令和5年9月30日
佐 藤 杜 英	令和5年7月31日	～	令和5年10月1日
中 静 裕 一 郎	令和5年7月31日	～	令和5年10月1日
平 原 賢 治	令和5年10月2日	～	令和5年10月10日
笹 森 瞳	令和5年10月2日	～	令和5年11月26日
池 田 慶 介	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
桃 原 理 子	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
伊 藤 敬	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
三 枝 信 大 郎	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
齋 藤 直 宏	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
水 岡 史 明	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
田 中 健 太	令和4年4月1日	～	令和6年3月31日
浦 上 尚 也	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
日 下 部 翠	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
祖 田 真 奈	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日

臨床研修医

石 井 達 也	令和4年4月1日	～	令和6年3月31日
高 野 す み れ	令和4年4月1日	～	令和6年3月31日
坂 野 彰 哉	令和4年4月1日	～	令和6年3月31日
佐 藤 佑 樹	令和4年4月1日	～	令和6年3月31日
仲 尾 捷	令和4年4月1日	～	令和6年3月31日
施 賀 皓 内	令和4年4月1日	～	令和6年5月31日
長 竹 茉 奈	令和4年4月1日	～	令和6年3月31日
林 祐 美 子	令和4年4月1日	～	令和6年3月31日
三 谷 貴 大	令和4年4月1日	～	令和6年3月31日
山 内 遥	令和4年4月1日	～	令和6年3月31日
伊 佐 迅 平	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
金 谷 拓 海	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
小 畑 遥 生	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日
羽 田 理 紗	令和5年4月1日	～	令和6年3月31日

7 病院案内図



外来フロアマップ

3階



2階



1階



川崎市立川崎病院 2020.4.6

8 定例院内会議

- (1) 三役会議
病院長、事務局長、副院長④、担当部長、庶務課長、担当課長、医事課長 週1回
- (2) 運営会議
病院長、事務局長、副院長④、各科部・課(科)長、担当部・課(科)長 月2回
- (3) 経営戦略会議
病院長、事務局長、副院長④、各科部長、庶務課長、担当課長、医事課長 月1回
- (4) 各種委員会 (令和5年4月1日現在)

番号	委員会名	委員長名	役職名	統括 開催予定
1	倫理委員会	上田 誠 司	副 院 長	上田副院長
	(脳死判定委員会)	(片山 真)	(脳神経外科部長)	(齋藤副院長)
	(臨床倫理コンサルテーションチーム)	(井上 健太郎)	(内科医長)	(齋藤副院長)
	*医療行為に関し、倫理的・社会的観点から審査等を行う。			必要に応じて開催
2	病院機能再編推進委員会	上田 誠 司	副 院 長	上田副院長
	*病院内の各部署の再編について調査及び検討する。			必要に応じて開催
3	医療安全管理委員会	上田 誠 司	副 院 長	上田副院長
	(医療安全管理部会)	(萬谷 京子)	(乳腺外科部長)	(上田副院長)
	*医療事故を防止し、安全かつ適切な医療体制を確立する。			月1回
4	職員衛生委員会	坂本 光 男	感染症内科部長	齋藤副院長
	*職員の労働衛生に関する事項を調査審議し、衛生管理の推進を図る。			月1回
5	院内感染対策委員会	坂本 光 男	感染症内科部長	齋藤副院長
	(感染対策部会)	(細田 智弘)	(感染症内科医長)	(齋藤副院長)
	*院内感染の防止のため、諸問題を調査及び審議する。			月1回
6	医療ガス安全管理委員会	佐山 宏 一	呼吸器内科部長	病 院 長
	*高圧ガス保守法に基づき、院内医療ガスの安全を検証及び推進する。			年2回
7	放射線安全委員会	野崎 博 之	病 院 長	病 院 長
	*放射線障害の防止について、必要事項を調査及び審議する。			年1回
8	診療録管理委員会	土橋 隆 俊	小児科部長	上田副院長
	*診療録の管理と診療情報の提供を行うために、必要事項を検討する。			月1回
9	給食委員会	津村 和 大	病態栄養治療部長	澤藤副院長
	*栄養業務及び給食業務の管理運営について検討する。			隔月
10	治験審査・臨床研究倫理審査委員会	津村 和 大	臨床研究支援室長	澤藤副院長
	*治験を行うことの適否、その他治験に関する調査及び審議する。			月1回
11	輸血療法委員会	定平 健	血液内科部長	齋藤副院長
	*輸血関連業務等の必要事項を検討する。			隔月
12	臨床検査業務検討委員会	津村 和 大	検査科部長	澤藤副院長
	*臨床検査の精度管理を行う。			必要に応じて開催
13	サービス向上委員会	藤原 実 香	副院長・看護部長	藤原副院長
	*職場環境を整え、患者サービスの充実と医療の向上を図るために、必要事項を検討する。			年9回
14	機種選定委員会	上田 誠 司	副 院 長	上田副院長
	*購入する医療用器機の仕様の決定又は機種の選定を行う。			必要に応じて開催
15	クリニカルパス検討委員会	津村 和 大	検査科部長	澤藤副院長
	*チーム医療の機能と効率性を高めるために、必要事項を検討する。			隔月
16	薬事委員会	小林 加寿夫	薬剤部長	澤藤副院長
	*薬事全般に関する事項について審議する。			年9回
17	保険委員会	野崎 博 之	病 院 長	病 院 長
	(DPCコーディング部会)	(野崎 博之)	(病院長)	(病院長)
	*診療報酬の請求に対する査定等について検討し、経営効率の向上に努める。			月1回
18	情報システム管理委員会	澤藤 誠	副 院 長	澤藤副院長
	(システム運用検討部会)	(檜林 教)	(医療情報システム管理室長)	(澤藤副院長)
	*医療情報システムの管理及び運用について検討する。			必要に応じて開催
19	手術部委員会	上田 誠 司	副 院 長	上田副院長
	(外来手術室部会)	(和多田 晋)	(血管外科部長)	(上田副院長)
	*手術部門の安全かつ円滑な運営をするために、必要事項の検討、調査審議及び提言を行う。			月1回
20	ICU・CCU運営委員会	森田 慶 久	集中治療部長	上田副院長
	*ICU・CCUの安全管理と集中治療室としての機能を発揮できる運営を推進する。			年2回
21	医療材料等委員会	市 東 昌 也	外科部長	病 院 長
	*医療材料等の採用・死蔵化の防止、使用の効率化及び試用に関する事項を検討する。			月1回

番号	委員会名 活動内容	委員長名	役職名	統括 開催予定
22	地域医療連携推進・強化委員会 (地域連携部会) *病院と地域の連携を図り、情報の共有化及びネットワーク作りを検討及び推進する。	澤藤 誠 (中田 さくら)	副院長 (産科部長・婦人科部長)	澤藤副院長 (澤藤副院長) 年4回
23	がん診療推進委員会 (がん患者会サポート部会) *がん診療の充実と推進のための検討を行う。	市東 昌也 (山内 秀行)	外科部長 (患者総合サポートセンター副所長)	病院長 (澤藤副院長) 年4回
24	褥瘡対策委員会 *褥瘡対策を討議し、その効率的な推進を図る。	原 智	皮膚科部長	上田副院長 月1回
25	救急医療運営委員会 (院内救急R R S部会) *救急部門及び災害時医療対策について、必要事項を検討する。	田熊 清継 (齋藤 豊)	救命救急センター所長 (救命救急センター室長)	田熊所長 (田熊所長) 月1回
26	化学療法委員会 *外来治療センターの運営に関する必要事項を検討する。	定平 健	血液内科部長	澤藤副院長 月1回
27	広報委員会 (広報部会) *広報雑誌とホームページの作成を中心に、病院の広報活動の推進を図る。	野崎 博之 津村 和夫	病院長 検査科部長	病院長 病院長 年4回
28	ボランティア推進委員会 *ボランティア活動を円滑化して、患者サービスの充実及び向上を図る。	藤原 実香	副院長・看護部長	藤原副院長 隔月
29	精神科救急医療検討委員会 *精神科救急医療を円滑に実施するために、必要事項を検討する。	齋藤 寿昭	精神科部長	齋藤副院長 必要に応じて開催
30	病院機能評価検討委員会 *病院機能評価の受審等に関する事項について検討する。	上田 誠司	副院長	上田副院長 年2回
31	医療機器安全管理委員会 *医療機器の安全使用のための情報収集、医療機器の安全使用のための研修の策定及び実施、医療機器の保守点検の計画の策定。	森田 慶久	麻酔科部長	病院長 年4回
32	チーム医療推進委員会 (NST・摂食嚥下支援チーム部会) 早期離床推進部会 *チーム医療について討議し、その効率的な推進を図る。	阿部 玲音 (阿部 玲音) (阿部 玲音)	リハビリテーション科部長 (リハビリテーション科部長) (リハビリテーション科部長)	上田副院長 (上田副院長) (上田副院長) 必要に応じて開催
33	緩和ケア委員会 *緩和ケアについて検討する。	澤藤 誠	副院長	澤藤副院長 月1回
34	外来診療委員会 *外来診療について検討する。	安藤 孝	外来診療部長	上田副院長 隔月
35	虐待対策委員会 *児童虐待に関する諸問題を調査及び審議する。	土橋 隆俊	小児科部長	田熊所長 必要に応じて開催
36	行動制限最小化委員会 *精神科入院患者の隔離・拘束・通信制限などにつきその妥当性を検討する。	齋藤 寿昭	精神科部長	齋藤副院長 月1回
37	内視鏡委員会 *医療従事者の診療検査体制及び診療情報共有による質の高い円滑な医療提供を図る。	澤藤 誠	副院長	病院長 隔月
38	教育研究委員会 (研修管理委員会) (研究支援委員会) (図書委員会) (特定行為活用推進委員会) (内科専門研修プログラム管理委員会) (内科専攻医研修管理委員会) *研修医の教育支援と管理、臨床研究支援、図書の整備、業績管理を行う。	野崎 博之 (小宮 浩一郎) (津村 和夫) (玉井 博修) (藤原 実香) (高木 英恵) (高木 英恵)	病院長 (整形内視鏡科部長) (臨床研究支援室長) (消化器内科部長) (副院長・看護部長) (総合内科部長) (総合内科部長)	病院長 (病院長) (病院長) (病院長) (藤原副院長) (齋藤副院長) (齋藤副院長) 年2回
39	精神科身体合併症管理委員会 *精神科身体合併症患者の診察・治療において院内連携を円滑にするための調整を行う。	齋藤 寿昭	精神科部長	齋藤副院長 月1回
40	働き方改革推進委員会 (医師事務作業補助者調整委員会) *医師の負担軽減及び処遇の改善に資する計画の作成や達成状況の評価等を行う。	野崎 博之 (野崎 博之)	病院長 (病院長)	病院長 (病院長) 年2回
41	難病医療支援病院運営委員会 *神奈川県新事業の実施に伴う院内体制の整備を行う。	澤藤 誠	副院長	澤藤副院長 必要に応じて開催
42	認知症ケア委員会 *認知症ケアについて討議、検討し、認知症の症状緩和、悪化予防の推進を図る。	北 薮 久雄	内科医長	病院長 月1回
43	医療放射線管理委員会 *放射線診療のプロトコール管理、被ばく線量管理、放射線の過剰被ばく等、放射線診療に関する対応、業務を行う。	池本 孝司	放射線診断科担当課長	澤藤副院長 年1回

番号	委員会名	委員長名	役職名	統括
活動内容				開催予定
44	透析機器安全管理委員会 *透析機器の安全使用のための情報収集、研修計画の策定及び実施、保守点検計画の策定を行う。	安藤 孝	腎臓内科部長	齋藤副院長 月1回
45	認知症疾患医療センター運営委員会 (認知症疾患医療センター運営委員会分科会) *認知症に係る相談、外来診療への案内、広報の企画、近隣医療機関との連携を行う。	北 薮 久 雄 (北薮 久雄)	内科医長 内科医長	病 院 長 (病 院 長) 必要に応じて開催
46	JMIP検討委員会 *外国人患者受入れ医療機関認証制度 (JMIP) に関する取組について検討・計画し実施を推進する。	澤 藤 誠	副院長	澤藤副院長 月1回

Ⅱ 診 療 科 概 要

1 内科

統括部長 安藤 孝

【診療科紹介】

本院の基本理念は「私たちは、地域の基幹病院として、他の医療機関と連携し、「病気」でなく「病人」を診る心を大切に、安全安心で質の高い医療を、患者の皆さまとともに考え、実践し、健康と福祉の向上を通じて地域社会の発展に貢献することを目指します。」であり、病んでいる「臓器」のみを診るのではなく、病に苦しむ人に向き合い、その人そのものを診ることを目指しています。そのため臓器別の内科ではなく一内科制をひき、全身をみるようにしています。現在、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科・肝臓内科、糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、脳神経内科、感染症内科、血液内科、緩和ケア内科、リウマチ膠原病・痛風センターの専門部門を擁しておりますが、内科統括部長のもと一内科として運用しています。

【令和5年度の取組】

地域がん診療連携拠点病院として、川崎南部医療圏におけるがん診療、緩和ケアの充実に、緩和ケア研修会集合研修企画責任者（隔年で井田病院との共催）、緩和ケア外来を内科で引き継ぎました。

(1) 総合内科

部長 高木 英 恵

【診療科紹介】

当院では、内科専攻医は総合内科に所属し、内科各専門分野のスタッフの指導のもとで入院、外来、救急外来患者さんを診療しています。「総合診療科」の名称で専攻医教育を行っていた伝統を引き継ぎ、内科総合診療医（general physician）の育成を目指しています。また、知識や技能だけでなく、病気でなく病人をみる心を大切に、安全・安心で質の高い医療を実践し、地域社会の発展に貢献することを目標にしています。

(2) 呼吸器内科

部長 佐山 宏 一

【診療科紹介】

呼吸器内科では、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの閉塞性肺疾患でさらに難治性で専門的な検査・治療が必要な症例、肺癌などの悪性腫瘍、間質性肺炎などのびまん性肺疾患の専門診療に対応しています。

(3) 循環器内科

部長 末吉 浩一郎

【診療科紹介】

循環器疾患（狭心症、心筋梗塞、心不全、弁膜症、不整脈など）の診療を担当しています。急性心筋梗塞に対する緊急PCIは24時間対応します。

(4) 消化器内科

部長 玉井 博 修

【診療科紹介】

消化器・肝臓内科では消化器疾患全般に対応いたします。

当院は日本内科学会、日本消化器病学会、日本肝臓学会、日本消化器内視鏡学会の認定施設となっています。

(5) 血液内科

部長 定 平 健

【診療科紹介】

当院は日本血液学会専門研修認定施設、日本血栓止血学会認定施設です。

令和5年度は324名、他院から直接血液内科に御紹介いただきました。

入院診療では主に、急性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・骨髄異形成症候群など造血器腫瘍に対する化学療法を行っております。診療には、日本血液学会認定血液専門医の指導のもと、総合内科所属医師があたります。外来診療では主に、貧血・血小板減少・白血球減少など血液異常や出血傾向の原因精査と、造血器腫瘍に対する通院治療を行っております。慢性貧血や血小板減少に対する外来定期輸血にも対応しております。

(6) 糖尿病内科・内分泌内科

部長 安 藤 孝

医 長 大 嶋 洋 佑

【診療科紹介】

当院の糖尿病内科・内分泌内科では、糖尿病・脂質異常症・肥満症・メタボリックシンドロームなどの代謝・栄養疾患、下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・性腺などの内分泌疾患の専門診療に対応しています。

糖尿病の診療では、各診療科にご入院となった患者さんの血糖管理に関するニーズがとて大きく、毎月100名超の新規相談を応需しています。これらに加えて、かかりつけ医様で血糖管理に難渋した症例の教育入院やインスリン導入等の相談、妊娠糖尿病の周産期管理などを多数行っています。

内分泌疾患の診療では、脳神経外科・耳鼻咽喉科・泌尿器科・産婦人科・放射線診断科等と協力しながら、適切な診断と治療に努めています。

【チーム医療の実践】

糖尿病診療では、医師・看護師・管理栄養士のチーム医療を実践した患者教育を重視しています。糖尿病専門医・糖尿病看護認定看護師に加え、30余名の糖尿病療養指導士が中心になり療養指導の質向上に努めています。また当院では1型糖尿病に対するインスリンポンプ治療(CSII)にも対応しています。糖尿病フットケアを目的として、かかりつけ医様との循環型の連携受診にも応じています。

【糖尿病教室】

管理栄養士による食事療法の基礎と応用の紹介、リハビリテーション科医師による運動

療法の講義、看護師による糖尿病療養指導、薬剤師による糖尿病関連薬の概説など、各回テーマ・内容を変えて糖尿病教室を開催しています。

【糖尿病教育入院】

教育入院の期間や入院日については、1人ひとりの病態やご事情を勘案して、オーダーメイドで設定します。糖毒性解除と至適薬物選択、2回の個別栄養指導、服薬指導等を含めた一連の教育と治療を完遂する場合には、概ね2週間を要します。

【その他の入院対応例】

- 妊娠糖尿病の初期指導：6分食体験学習とSMBG導入を併行して行います（7日間程度）
- 下垂体機能精査：確定診断に必要な負荷試験や蓄尿検査等を行います（5日間程度）
- 副腎機能精査：確定診断に必要な負荷試験や蓄尿検査等を行います（5日間程度）

【糖尿病・内分泌疾患の救急対応】

高血糖緊急症（糖尿病ケトアシドーシス、高血糖高浸透圧症候群）、下垂体卒中、甲状腺クリーゼ、粘液水腫性昏睡、副腎クリーゼ、褐色細胞腫クリーゼ、高度カルシウム代謝障害などの内分泌緊急症の治療では、救急科・救命救急センター及び総合内科等と協力・連携しながら対応しています。

(7) 腎臓内科

部長 安藤 孝

【診療科紹介】

腎臓内科では、さまざまな腎臓の異常、指定難病の診療、指導に対応しています。各種血液浄化療法のほか、維持腹膜透析など、受け入れ対象疾患を徐々に拡充しています。

(8) 脳神経内科

部長 野崎 博之

【診療科紹介】

当院の脳神経内科は、救急科、脳神経外科、リハビリテーション科と協力し、脳血管障害の診療に積極的に取り組んでいます。頭痛・めまい・しびれなどの神経系の症状や、認知症、パーキンソン病、てんかん、重症筋無力症などの神経疾患の診療も行っております。また内科の一部門として、各種内科疾患に伴う神経合併症を含め、総合的な診療を行っております。脳血管障害に対して、平成29年4月に高度脳神経治療センターを立ち上げ、24時間体制でtPAによる血栓溶解療法や血管内治療などが行えるようになりました。令和3年6月から主にパーキンソン病を対象とした脳深部刺激療法(DBS)を脳神経外科と協働のうえ開始し、令和5年度より日本定位・機能神経外科学会認定の機能的定位脳手術技術認定施設に認定されました。パーキンソン病の専門外来も開設し紹介患者様の診療にあたっております。令和3年8月には認知症疾患医療センターを開設し、もの忘れ外来、もの忘れ相談室を主軸とし地域の認知症診療の中心となるべく日々業務にあたっております。また、早期アルツハイマー病の新薬である「レカネマブ」も使用しております。そして、令和4年5月から頭痛外来

を開設し、二次性頭痛の鑑別や片頭痛などの一次性頭痛の診断及び CGRP 関連薬剤を含めた治療を行っております。専門外来(パーキンソン病外来、もの忘れ外来、頭痛外来)は完全予約制ですので、ご紹介頂く際には当院にお問い合わせ頂ければ幸いです。

(9) 感染症内科

部長 坂本 光 男

【診療科紹介】

当院は感染症病床を有する第2種感染症医療機関、HIV/エイズ診療拠点病院に指定されています。ただし、結核病床は有していないので、結核診療には対応しておりません。結核及び非結核性抗酸菌症につきましては、疑い例も含めて指定の医療機関にご紹介下さい。

結核を除く2類感染症、新型インフルエンザ、中東呼吸器症候群(MERS)等の新感染症、3～5類感染症を中心に診療しています。特に感染性腸炎(食中毒・旅行者下痢症を含む)、輸入感染症、HIV 感染症/AIDS、性感染症、成人における小児流行性ウイルス感染症などの診療に力を入れています。ただし麻疹につきましては、嚴重な空気感染予防策が必要となります。時間帯によっては対応が困難なこともあります。受診希望の際は、必ず事前にご連絡をお願いいたします。

各種ワクチン接種(本邦未承認薬及び黄熱ワクチンは除く)や海外渡航前の事前相談も可能です。診断にあたっては川崎市健康安全研究所や国立感染症研究所とも連携し、正確な病原診断を心がけております。

(10) リウマチ膠原病・痛風センター

所 長 田 口 博 章

【診療科紹介】

当センターの診療は、初診の方は、はじめにリウマチ内科の医師が担当し、病状に応じて、整形外科、リハビリテーション科の外来担当医に診察して頂きます。内科では、最新の薬物治療を中心とした病気全体の管理を行います。整形外科では、関節リウマチによる関節機能障害に対する手術療法を行います。リハビリテーション科では、装具治療、手術療法後のリハビリテーションなどを中心に行います。

2 小児科

部長 土橋 隆 俊

【診療科紹介】

川崎市南部の小児科医療を担う基幹病院として、スタッフ8名、専攻医4名の計12名で診療を行っております。市中病院ではありますが、15歳未満の小児患者の専門病棟があり、外科系疾患の小児患者も入院しております。外科系各科との連携もスムーズです。病棟の診療体制はチーム制で、スタッフと専攻医が組み丁寧な診療を心がけております。そこに研修医や学生実習も組み込まれ、専攻医が学びながら教育もできるような体制を構築しております。

小児科では、感染症や痙攣性疾患を中心とした急性疾患全般と、小児内科系の各専門分野について、診療を行っております。川崎南部の『最後の砦』の基幹病院として、可能な限り近隣の先生方からのご紹介を受けられるように頑張っております。消化器外科疾患や悪性腫瘍等は、診断確定の上速やかに専門病院に紹介するようにしております。

スタッフ8名はそれぞれが専門分野を持ち、診療にあたっております。循環器、内分泌代謝、感染症、呼吸器、アレルギー、腎臓とそれぞれの専門性を生かしつつ、診療しております。初診での対応になりますが、その後、予約制で循環器・内分泌代謝・腎臓・アレルギー・神経・精神保健・血液についての専門外来を非常勤医師も含め行っております。

夜間休日は川崎市南部小児急病センターとして、院内外の医師で1次・2次救急に対応しております。

3 新生児内科

部長 森 和 広

【診療科紹介】

新生児内科では、以下の状況の院内出生児および他院からの搬送児の入院診療に対応しております。

- 早産・低出生体重児（在胎26週以降を目安に受入れています）
- 呼吸状態の不安定な児
- 仮死状態で出生した児
- 発熱を伴う児
- 嘔吐や哺乳不良、血便など、消化器症状のある児
- 先天的な特徴のある児
- 黄疸の強い児
- けいれんをきたした児
- 高次周産期施設から、逆搬送を要請された場合
- 屋外など分娩施設外で出生した直後の児

周産期救急に対応することを重視しております。搬送依頼に、24時間体制で対応します。

こども病院・大学病院とも連携し、医療レベルの向上に努めています。当院での対応に困難が予想される一部の外科系疾患の場合、適切な医療機関への紹介・搬送転院を行います。

4 精神科

部長 齋藤 寿 昭

【診療科紹介】

川崎市基幹病院かつ総合病院有床精神科であり、県・市の精神科救急体制の一環として、また精神疾患を有する患者の身体合併症の治療も担うべきと考えております。さらに一般的な薬物療法での効果が認められない患者さんにつき、麻酔科などと連携し、修正型通電療法（m-ECT）を施行しております。また治療抵抗性統合失調症に対して適応を吟味したうえ、適正使用委員会に登録を要するクロザピンの使用を入院および外来でおこなっております。

【令和5年度の取組】

令和5年度の当科入院件数は202人（前年187人）平均在院日数は31.0日（前年31.6日）でした。地域連携による入院患者の増加、診療の効率化による在院日数の短縮に引き続き努めています。外来新患数は274人（前年289人）再来数は13,606人（前年14,359人）と縮小傾向にはありますが、これには当院の方針に準じ、初診を原則紹介予約制にした影響もあります。当科に期待される鑑別診断、入院依頼、合併症などでの初診数は増やしていかなければならないと考えております。

さらに当科は4区市協調精神科救急の基幹病院として2次、3次精神科救急を担っています。令和5年度4区市精神科救急患者は25件で前年20件に比しわずかに増えていますが、この数値は当番日の精神科救急症例の有無のみでなく、救急受け入れ病床確保のための後方移送の円滑さに左右されます。依然コロナ禍の影響もある中、市健康福祉局、県との協議を続けています。

また、単科精神病院からの通電療法の依頼も続いており、令和5年度の通電施行回数は431回で前年の396回を上まっています。

その他の身体合併症、治療抵抗性統合失調症治療薬クロザピン使用などでの単科精神病院からの転院、また精神症状の急性増悪などによる入院は令和5年度97人（前年96人）でした。今後も患者サポートセンター、精神保健福祉士との迅速な協力体制を進め、病病連携、病診連携を進めてまいります。